

I 就学前教育

「南の就学前教育の重点」

1 園運営の充実

- (1) 教育・保育の質の向上を図るためのカリキュラム・マネジメントの充実
 - ① 園の教育・保育目標の達成に向け、目指す子どもの姿を明確化し、その姿を実現していくための組織的・計画的な教育・保育の充実を図る。
 - ② 明確化した目指す子どもの姿を踏まえ、自園の教育・保育課題を基に園目標を見直す。また、その具現化に向けた重点目標を設定し、組織的・計画的な取組を推進するため、職員間で共通理解を図る。
 - ③ 園として育成を目指す資質・能力が育まれるよう、PDCAサイクルを機能させ、教育・保育の効果を常に検証し、改善を図る。
 - ④ 園長のリーダーシップの下、全職員が役割を適切に分担したり、外部人材と連携・協働したりするなど、教育・保育の実施に必要な人的・物的体制を整備する。
 - ⑤ 重点や明確な視点を踏まえた教育・保育の記録を蓄積することで子どもに対する理解を深め、保育者の意図と子どもの思いや願いとのバランスのとれた教育・保育ができるようにする。また、保育者のキャリアステージに応じた計画的な研修機会の保障及び研修内容の充実に努めることで、人材の育成を図る。
- (2) 園運営の改善を図る学校（園）評価の推進
 - ① 教育・保育目標の実現のため、園長のリーダーシップの下、全職員による全体的な計画等の実施状況の評価や、学校（園）評価を行う。その結果に基づき、園運営の見直し・改善を図る。
 - ② 評価機会を年に複数回設け、評価結果を短期・中期・長期の視点で整理するとともに、課題解決に向けて明確な見通しをもち、園運営の改善を図る。
 - ③ 保護者、地域住民等の理解を得ながら連携・協働による地域に開かれた園運営が進められるよう、学校（園）評価の実施及び結果の公表により、適切に説明責任を果たすようにする。

2 教育・保育の充実

- (1) 様々な人やもの、こととの関わりの中で、自己を発揮し、自他を認めながら協同して取り組もうとする子どもの育成
 - ① 子どもが身近な環境と関わる中で、好奇心や探究心を抱き、遊びを通じて一人一人が満足感・充実感を味わうことができる教育・保育に努める。
 - ② 発達の連続性を理解し、遊びや生活の中で子どもに必要な経験を積ませながら、乳幼児期に育みたい資質・能力の育成を図る。
 - ③ 自ら考え、判断し、行動しようとする子どもを育成するため、子どもの興味・関心を捉え、進んで関わりたくなるような魅力的な環境の構成や保育者の援助に努める。
 - ④ 子どもが身近な人と親しみ、関わりを深めながら遊びに取り組むことを通して、一緒に活動するよさや楽しさを味わい、生活がより豊かに展開するよう、意図的な教育・保育に努める。
- (2) 年齢や発達の過程を踏まえたキャリア教育の推進
 - ① 遊びや生活の中で身近な人に認められたり、周りの人の役に立ったりする喜びを味わうことで、より身近な環境に興味・関心をもち、様々な活動に主体的・意欲的に取り組む子どもの育成を図る。
 - ② 友達や異年齢児との遊び、自然体験や感動体験等、直接的・具体的な体験を通して、仲間や園、場所やもの、こととの関わりを深められるようにする。
- (3) 子どもの内面理解に基づいた評価及び教育・保育の実践
 - ① 子どもの実態を把握し、教育・保育のねらいと内容を明確にするとともに、子どもの具体的な姿を捉えて適切な評価につなげるよう努める。
 - ② 乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として子どもの姿や変容を見取り、発達の過程を踏まえた教育・保育の改善に生かす。

3 教職員の資質向上

(1) 園の課題解決を図るための組織的・計画的・継続的な研修の推進

- ① 園長のリーダーシップの下、園全体で計画的な研修推進が可能となるよう、組織づくりや研修内容を工夫する。
- ② 研修リーダーを核にPDCAサイクルを機能させ、日々の教育・保育の実践を通じた知識及び技術の習得、向上に努める。また、保育者同士が主体的に学び合う研修推進体制を構築する。
- ③ 保育参観や協議等を通して、乳幼児期において育みたい資質・能力の育成を図る教育・保育の手立てについての成果や課題を明らかにする。また、それらを教育・保育の改善の視点とし、実践に生かす。
- ④ インクルーシブ教育システムの理念の下、子ども一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援ができるよう、各障害に応じた基本的な対応や発達の特性等について研修を行い、全職員の特別支援教育に関する理解を図る。
- ⑤ 研修内容や運営について中間及び年度末評価等を計画的に実施し、全職員で検証・分析することで改善を図り、効果的な取組につなげる。
- ⑥ 園内及び近隣の園や小学校への保育公開等を通して保育を見合い、子どもの姿を基に協議することにより、乳幼児理解を深める。また、そうした機会を年間計画に設定するなど、地域で学び合う体制の構築及び充実に努める。

 p 4

(2) 市町村と幼保小との協働による円滑な接続の推進

 p 3、4

(3) 秋田県教職キャリア指標（保育者）を踏まえた体系的・計画的な研修の推進

- ① 園の課題や保育者のニーズを基に組織的・計画的な園内研修に取り組むとともに、関係機関等による外部研修への参加機会の確保に努める。
- ② それぞれの保育者が身に付けるべき資質能力や、園で果たすべき役割を理解し、キャリアステージに即した実践的指導力の向上につなげる研修に努める。

4 子育て支援の充実

(1) 子育て支援体制の整備と保育者の専門性を生かした支援の推進

- ① 一人一人の保護者を尊重し、受容的態度で気持ちに寄り添いながら、より深く保護者を理解しようと努めることで、相互の信頼関係を構築できるようにする。
- ② 教育・保育及び子育てに関する知識や技術など、保育者等の専門性や園の特性を生かした取組により、保護者が子どもの成長に気付き、子育ての喜びを感じることができる支援に努める。
- ③ 様々な家庭の状況に対応できるように、地域の関係機関と連携・協働するなど、園全体の子育て支援体制の構築と組織的な取組の充実を図る。
- ④ 業務上知り得たことについてはプライバシーの保護や秘密保持を前提とし、園全体で保護者や家族との信頼関係の構築を図るとともに、保護者や家族に対し、安心して子育てに関する話や相談ができる機会の保障に努める。
- ⑤ 特別支援教育コーディネーターを核とした園内支援体制を整え、子ども一人一人の教育的ニーズを把握するとともに、家庭や関係機関と連携することで、適切な支援ができるようにする。

(2) 教育・保育と密接に関連した保護者支援の推進

- ① 園の活動に対する保護者の積極的な参加を促すとともに、参加しやすい環境づくりに努める。また、子育てに関し、保護者が自ら選択・決定していくことを尊重し、実践する力を高めていくことができるよう支援する。
- ② 園での生活と家庭での生活の双方が充実するよう、子どもの興味・関心のつながりを考慮した教育・保育の実践を心掛ける。
- ③ 家庭と園が理解し合い、その関係を深めるため、保護者に園やクラス在教育・保育の意図を伝えとともに、疑問や要望には対話を通して誠実に対応する。また、様々な機会を活用し、家庭や園での子どもの様子を具体的に伝え合い、子どもへの愛情や成長を喜び気持ちを共感できるようにする。